

令和5年度 テーマ展示

六人部暉峰と前田玉英

令和5年(2023) 6月3日(土)～7月30日(日)

六人部暉峰(むとべ きほう)は、本名を六人部貞栄といい、明治12年(1879)、京都府乙訓郡屈指の古社・向日神社の神官を代々務めてきた六人部家に生まれました。

10歳代前半で近代日本画の巨匠・竹内栖鳳に入門して日本画家となった暉峰は、明治20年代後半から30年代半ば頃にかけて諸団体の展覧会に活発に出展して入賞を重ね、皇室の御用品にも度々選定されたほか、多くの刊行物にも作品が掲載されるなど、日本画家として着実に実績を積んでいきますが、展覧会への出展がみられる期間は10年にも満たず、やがて諸記録から姿を消し、忘れ去られていきました。

当館では、令和3年度に特別展「日本画家・六人部暉峰の世界」(令和3年11月6日～12月5日)を開催し、これまでほとんど知られていなかった暉峰の画業と生涯を、残された作品や関係資料によって初めて紹介しました。

今回のテーマ展示では、令和3年度特別展をきっかけに当館に寄贈いただいた暉峰の作品3点を初めて公開するほか、暉峰と同時代に活躍していた京都画壇の女性日本画家、前田玉英・中井梅園・土田喜園の作品も展示します。

いずれも今日ではあまり知られていませんが、まだまだ男性優位であった時代の京都画壇で、女性初の文化勲章受章者となった上村松園と肩を並べて活躍していた女性画家たちがいたことを知っていただくことができれば幸いです。

■日曜談話会「明治期京都画壇の知られざる女性画家たちー六人部暉峰を中心にー」

日時：6月18日(日)午後2時～4時

担当：里見徳太郎(向日市文化資料館)

会場：向日市文化資料館 2階 研修室

定員：40名

参加費：無料

申込みは6月3日(土)午前10時から、直接または電話(075-931-1182)で向日市文化資料館へ。

定員に達し次第締め切ります。



六人部暉峰<<猫>>
向日市文化資料館蔵(個人寄贈)



六人部暉峰<<鯛>>
向日市文化資料館蔵(個人寄贈)



前田玉英<<清流図>>
個人蔵

向日市文化資料館

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1 TEL 075-931-1182

開館時間 午前10時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで) 入館無料

会期中の休館日：毎週月曜日(7月17日は開館)、7月4日(火)、7月18日(火)

ホームページ <https://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/bunka/>

